

53 年間病気なしの人生 ①



(一社)日本機械土工協会
顧問 戸塚 進也

保坂常務理事より定期的に発刊されることになった協会誌に「会員のページ」を設けたが、もし投稿がなかった場合は、約40年間当協会の顧問として公私にご支援を賜ってまいりました私に投稿を求められましたので、会員各位にご参考になるかどうかは自信がありませんが、私の体験したことをありのままに書かせていただき、皆様の人生の少しでもご参考になればと存じ、失礼を顧みず書かせて頂くことにいたしました。

本日は第1回目として、人の人生で最も幸せなことは「お金が十分あって病気一つしない」ことではないかと、私は80年間の人生を顧みて思うのですが、皆様はいかがでしょう。私の人生で最も期待するお金の方は運が悪く、残念ながら全く恵まれない人生を送ってまいりました。でも、私の周りの方々は誰も笑って信じてくれません。本当に困ったことですが、「あいつはいつもスッカスカだ」と言われるより、いかにもお金が有り余っていると思われた方が得な人生かなと思ったり、お金があれば高級車に乗り、あるいは近いところでもタクシー（ハイヤー）に乗ってしまい、ほとんど歩かないとなりますが、バスや電車を除いてはほとんど歩きの毎日で、平均して7～8000歩くらいは歩いておりますので、その点だけでも幸せです。

国会議員19年間では、参議院時代議院運営委員会理事を3期連続で務めさせていただきましたが、国会の衆参両院の廊下を1日何往復したか見当もつきません。こうした私でも20代では父の実家である洋品雑貨店の経営を任され、かなり神経を使ったことが原因でしょうか、心臓神経症と医師である叔父に宣告され、朝から心臓がドキドキして微熱に悩まされ、夕方酒の一合でも飲めば熱が下がり元気になるという不見識な病気に悩まされました。

私が27歳で郷里の静岡県掛川市議に当選して間もない頃妻が「あなたは毎日死にたくない死にたくない、ここがおかしいあそこがおかしいと言ってばかりですが、そんなにおかしいなら死んだらどうですか、3人の子供は私がしっかり育てますからあなたは安心して死になさい」と宣告されてしまいました。その瞬間私の頭の中には自分は妻にもこんな宣告を受けようでは大した人間ではないのだ。これまでまるで地球は私のために回っていると思っていたが、妻からこのように宣告されたのだから、私はどうなっても経営しているお店も家族も心配がないとのことだ。このように心にしっかり受け止めた瞬間から以後53年間、一日中床に就くことは1日もないという、気が付いてみたら私程幸せな人間は本当に少ないのではないかと、ありがたさが身に染みるようになったのです。妻はこの話題が持ち上がると、「私はあなたに死んでしまえなどといったことはありませんよ」といいますが、私はこの耳で間違いなく聞いたのです。唯くれぐれもご注意願いたいのは、「私は死にたい」と繰り返し言っている人に、「それではどうぞ死んでしまいなさい」ということは全くあってはいけないことだと固く固く申し上げておきたいと存じます。おかげさまで53年間を振り返ればなんと私は幸せであったかを感じておりますが、それでは私が健康で過ごさせていただいた人生につき、今回のページからありのままの体験談を申し上げます。

=====プロフィール=====
戸塚 進也(とつか・しんや)

1940年1月2日生まれ
・1974年7月参議院議員・1983年7月衆議院議員・2005年掛川市長。1992年より当協会顧問を務めて頂いております。